

環境工学部門 一研究協議会

コロナ危機がもたらす建築環境工学の新たな展開

[資料あり]

9月14日(木) 14:15~17:00 法経済学部本館 第7教室

司会 小林知広(大阪大学)

副司会 奥園 健(神戸大学)

記録 宇野朋子(武庫川女子大学)

1.主旨説明 梅宮典子(大阪公立大学)

2.主題解説

①住生活・住環境に関する意識等へのコロナ禍の影響

室 恵子(足利大学)

②室内の騒音レベルと飛沫による感染リスクの関係

辻村壮平(茨城大学)

③接待を伴う飲食店における換気と室内環境、感染症対策

金 勲(国立保健医療科学院)

④卓上透明衝立の光反射性・遮音性が会話印象に及ぼす影響

佐久間哲哉(東京大学)

⑤デスクパーティションが呼吸器エアロゾル粒子への曝露に与える影響

尾方壮行(東京都立大学)

⑥リモート環境でのコミュニケーションにおける視聴覚的な印象と距離感・共在感覚について

佐野奈緒子(東京電機大学)

⑦新型コロナ感染防止に係る行動変容が住宅のエネルギー・水消費に与えた影響

水谷 傑(住環境計画研究所)

3.討論

4.まとめ 大岡龍三(東京大学)

2020年以降に全世界を襲った新型コロナウイルス感染症の爆発的な流行は、いくつもの波を経ながら2023年の現在も完全には終息せず、不安な状況が続いている。コロナ危機は経済、社会、文化に根本的で急激な転換を迫り、その影響は計り知れない。

いわゆる「三密の回避」は換気による対応にとどまらず、対人距離の変更はコミュニケーションのあり方を変え、リモートワークやオンライン授業など、情報技術が職場や学校に導

入されて、建築や都市の空間そのものを変えつつある。

建築環境工学の各研究分野は、コロナ危機に直面してどのように展開を始めたのか。コロナ後の世界において、どのような役割を果たすことができるのか。

本研究協議会は、熱、音、空気、光、環境心理生理、都市環境・設備の各分野からの主題解説をもとに、今後の分野間の連携も視野に討論を行って、研究の新たな展開の可能性を探りたい。